

# にーだんご



発行：くにたちの暮らしを記録する会

(佐伯安子)

民具調査 聞き書き 伝承

## ―地域活動の歩み―

代表 佐伯安子

昭和四三年（一九六八）、国立第一小学校PTAが「郷土・くらしの歩み展」と題して展示会を開催した。その時、集めた民具が五〇〇余点でした。

昭和四十年に富士見台団地が完成。四二年に中央高速道路が谷保田圃の中に開通した。

先祖代々守ってきた土地を手放し、真黒になって働いてきた人々は、少しずつ文化的な生活へと入っていった時期であった。

昭和四三年（一九六八）国立第一小学校PTAが明治百年を記念して「郷土のくらしの歩み展」を開催した。

その時集めた五〇〇余点の民具が、その後の年月を静かに時の来るのを待ってくれたようにさえ今は思える。

### 民具調査団

昭和五三年に、教育委員会の

社会教育課が広く呼びかけをして「民具調査団」が結成された。手始めとして、一小に保管されていた民具の整理にあたった。民具調査団発足まもなく民俗学者の宮本常一先生の講演があった。

「民具収集・調査の意味」と題して、調査の手がかりとして、収集の方法を熱くお話しして下さったのです。

宮本常一先生の紹介で、香月洋一郎（当時日本観光文化研究所）先生が指導に当たって下さった。その後、香月洋一郎先生は「神奈川大学日本常民文化研究所」の教授として広く活躍されました。

### 調査と収集

夏休みが終わると大学生、中学生、学生さん達の参加者が少なくなっていく、四〇代前後の主婦たちが残り、中心となって調査が集められて行った。青柳地区より下組まで余すことなく農家の調査を進めて行ったのです。

使われなくなった農具、住用

具など、物置の中で、埃りだらけ、もう使わないから燃してしまえ、などと、一生懸命働いて来た道具は、粗末に扱われていました。

高度成長期の中で、働いて働いて働いて来た民具たちに、調査によって感謝を言われる時が来たのです。

国立市の植物調査が一段落した後、当時の社会教育課が次の計画の準備の中で、民具調査することを着々と進めていた事を後に知ったのでした。その人物が、今は亡き、佐藤元市長であったと聞き驚きました。もうすぐと言うところで職場の異動でした。今私が思うに辛かった事と思いますが、調査団の皆さんは、何も知らず、好きな調査を楽しみながら進めていったのです。

使われなくなつて久しい農具など物置から取り出す作業から始まり、その埃のすごさにとまどいながらも、少しずつ作業の手順を学習していったのです。家の方々が一緒に協力して下さ